



山口天神の牛石

石樋

瀬戸の石丁場跡 (名古屋城天下普請の石垣事情)

主催：せとモノがたりの会・瀬戸市・(公財)瀬戸市文化振興財団

日時：令和8年2月28日(土)

見学コース：午前9時 文化センター北駐車場出発

(予定時間) A	9時15分	山口八幡社到着・牛石現地説明	B	9時15分	山口八幡社到着・海上川石丁場移動現地説明
	10時00分	海上川石丁場移動現地説明		10時00分	牛石現地説明
	10時40分	海上川石丁場出発		10時50分	山口八幡社出発
	11時05分	石樋到着・現地説明		11時10分	石樋到着・現地説明
	11時45分	バス駐車場出発			
	12時00分	文化センター北駐車場到着・解散			

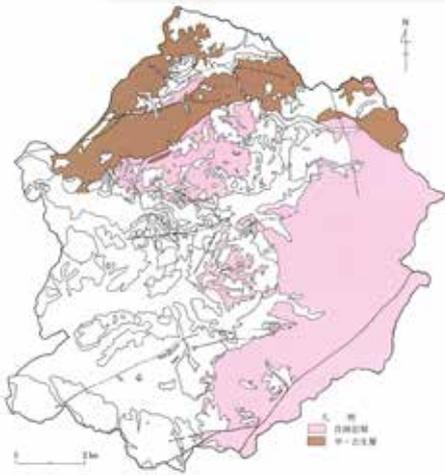
瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきもの生産の変遷

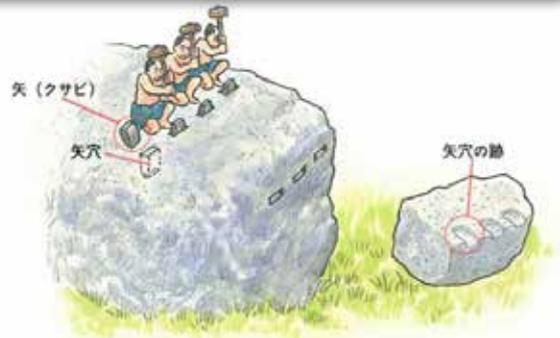
今回見学する文化財とその関連年表

本地大塚古墳(西本地町2丁目)	古墳	5世紀		
宮地古墳群(上之山町2丁目)	飛鳥	6世紀		
		7世紀	須恵器	630-50頃 山口八幡1号墳の築造 (H50号窯式前半)
	奈良	8世紀		
		9世紀	灰釉陶器	
広久手30号窯跡 木造十一面観音菩薩立像(下半田川町) 県 木造阿弥陀如来立像(下半田川町) 県	平安	10世紀		
		11世紀		
		12世紀	山茶碗	
古瀬戸瓶子(寺本町)	鎌倉	13世紀		1240-1380頃 山口八幡1号墳石室への中世遺物の持ち込み (山茶碗7~9型式)
陶製狛犬(深川町) 国	南北朝	14世紀	古瀬戸	
瀬戸窯跡【小長曾窯跡】(東白坂町) 国 永享年銘梵鐘 聖徳太子絵伝(塩草町)	室町	15世紀		
定光寺本堂(定光寺町) 国 織田信長制札(窯町) 菱野郷倉『大般若経』[一部鎌倉] 瀬戸窯跡【瓶子窯跡】(凧山町) 国 源敬公廟(定光寺町) 国 笠原村・両半田川村国境争論絵図(東松山町) 石造地藏菩薩立像(片草町)	戦国	16世紀	大窯 製器	1600(慶長3) 関ヶ原の合戦 1609(慶長14) 徳川家康・義直が清洲入城 尾張の拠点の名古屋移転決定 1610(慶長15) 徳川家康の命により名古屋城築城(2月開始 9月完了)
		17世紀		
大目神社本殿(巡問町) 国登 陶質十六羅漢塑像(寺本町) 六角陶碑(藤四郎町)	江戸	18世紀	連房 製品	
旧山繁商店(仲切町・深川町) 国登 瀬戸永泉教会礼拝堂建造(杉塚町) 国登 陶製梵鐘(深川町)	近代	19世紀		1838-40(天保9-12) 『尾張名所図会』執筆(後編刊行は1880)('石樋'等の掲載)
	(明治) (大正) (昭和)	20世紀		

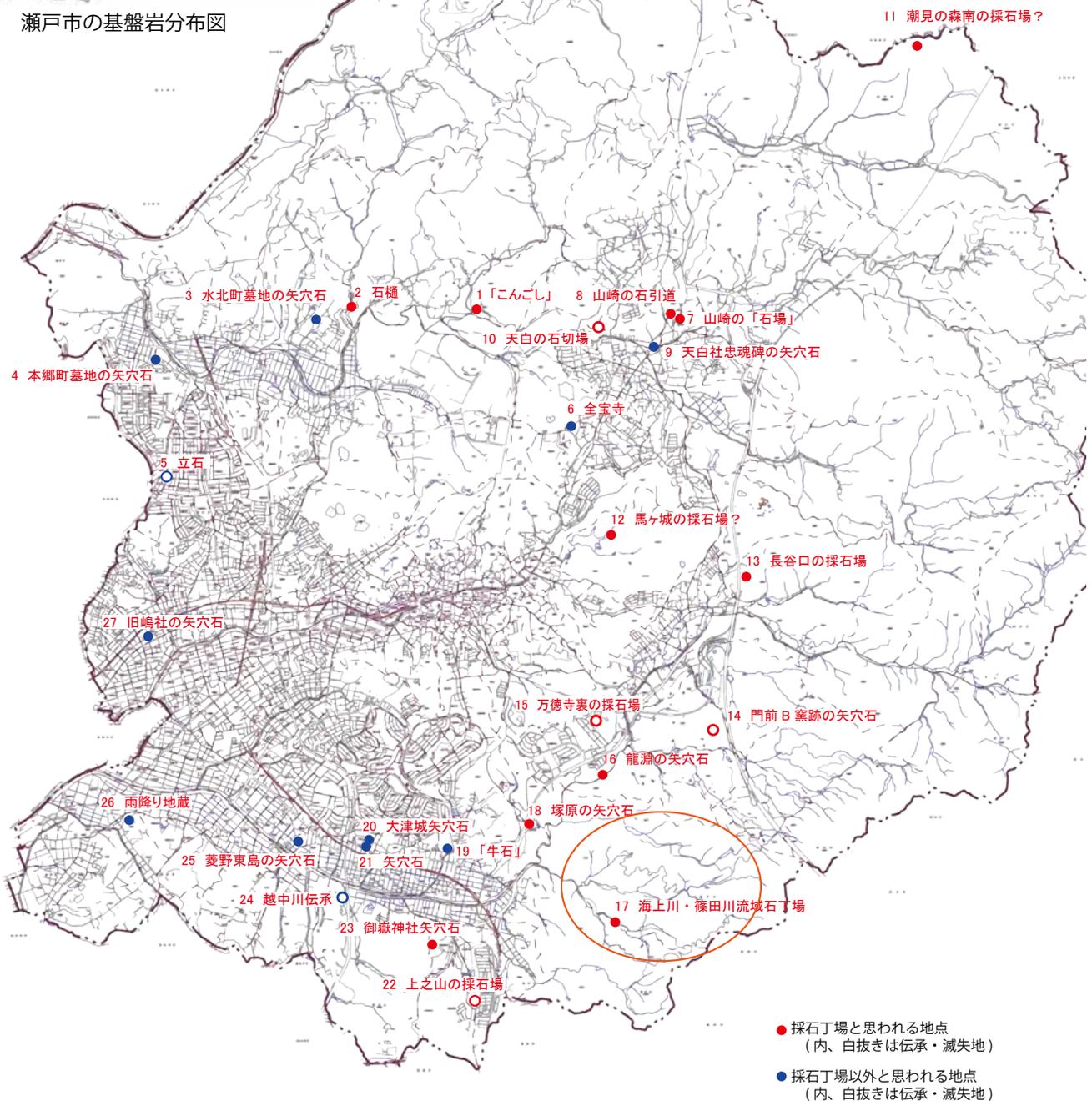
瀬戸の石丁場跡



瀬戸市の基盤岩分布図



近世の石垣石材の採取方法「矢穴技法」
((公財)日本城郭協会公認『城びと 超入門!お城セミナー』HPより)



瀬戸市域における石丁場等関連位置図

瀬戸市域における石丁場等関連情報一覧

2026.2.28現在

地区名	町名	名称	調査経緯	名古屋城 関連伝承	資料種類・現状	石材	地誌	
1	水野 曾野町	「こんごし」および作石	採石地伝承				上水野村絵図	松本氏より
2	水野 水北町	石礎			矢穴石 10cm規模	現存	花崗岩	尾張名所図会 沢田2024
3	水野 水北町	水北町墓地の矢穴石			5cm規模	現存	花崗岩	20241029踏査による
4	水野 本郷町	本郷町墓地の矢穴石				現存		松本氏より
5	水野 やまて坂3丁目?	立石	伝承	○		滅失(開発による)	鶴舞籠中記・尾張御行記	松本氏より
6	品野 品野町2丁目	全宝寺供養塔 2基	伝承	○	矢穴石・刻紋(五徳)	現存	花崗岩	高田1999
7	品野 広之田・品野町8丁目	山崎の「石場」	民俗調査		5cm規模	滅失(開発による)	花崗岩	三浦氏・水野氏より
8	品野 広之田・品野町8丁目	山崎	民俗調査		石引道 5cm規模			三浦氏・水野氏より
9	品野 落合町	天白社忠魂碑台石			矢穴石 10cm規模	現存	花崗岩	東春日井郡誌 高田1999
10	品野 落合町	天白の石切場	民俗調査			滅失(開発による)		三浦氏・水野氏より
11	品野 上半田川町	潮見の森南の採石場?					花崗岩	上杉氏より
12	瀬戸 馬ヶ城町	馬ヶ城の採石場			(矢穴石等未確認)	現存		上杉氏より
13	赤津 長谷口町	採石場跡			(矢穴石等未確認)	現存	花崗岩	上杉氏より
14	赤津 門前町	門前B竈跡の矢穴石	考古調査		矢穴石 10cm規模	滅失(開発による)	花崗岩	青木2012
15	赤津 塩草町	万徳寺裏の採石場	民俗調査					三浦氏より
16	赤津 西山路町	龍淵の矢穴石	民俗調査		矢穴石 2か所	現存	花崗岩	上杉氏より(『尾張名所図会』龍淵現地確認時発見)
17	山口 海上町・広久手町	海上川・篠田川流域石丁場	考古踏査		矢穴石・刻紋 10cm規模	現存	花崗岩	田口・佐藤2015、大村 隆ほか2024、 上杉・中島・山田氏より
18	山口 若宮町1丁目	塚原古墳群の矢穴石	考古調査		矢穴石 5cm規模	現存	花崗岩	国道建設による古墳移設時に付近の矢穴石を移設場所へ移す
19	山口 八幡町	山口八幡社牛石			矢穴石 10cm規模	現存	花崗岩	尾張名所図会 高田1999
20	山口 今林町	大津城跡の矢穴石			矢穴石 10cm規模	現存	花崗岩	高田1999
21	山口 今林町	大津氏宅前の矢穴石			矢穴石 10cm規模	現存	花崗岩	高田1999
22	山口 上之山町2丁目	(上之山の採石場)	民俗調査			滅失(国道拡幅)	花崗岩	鈴木氏より
23	山口 南山口町	御嶽神社(富士浅間社)			刻紋(田中・福島・毛利か)	現存	花崗岩	高田1999
24	山口 南山口町	越中川(築城用石材の転落石関連伝承)	伝承	○	-	伝承のみ		大津1995
25	菱野 東菱野町	東島子供遊園地の矢穴石	考古踏査		矢穴石 10cm規模	現存	花崗岩	田口氏より
26	本地 駒前町	雨降り地蔵(築城用石材の転落石を地蔵に)	伝承	○		現存	花崗岩	瀬戸・尾張旭郷土史研究同好会2005
27	今村 平町3丁目	旧嶋社の残石			矢穴石 5cm規模	現存	花崗岩	青山氏より

※本一覧表は、大村隆氏、山口郷土資料館運営委員、上杉彰氏はじめせとモノがたりの会会員、中島有子氏、山田美和氏ほかの協力をいただき作成した。

瀬戸市域は、南東部の山地・丘陵地を中心として花崗岩の岩盤がみられる（左頁の基盤岩分布図）。その花崗岩分布域や西側の街道筋には、名古屋城をはじめとする石垣等の石材を採石した石丁場（普請場）（左位置図の赤丸）や運搬中に取り残された残石等（左位置図の青丸）がみられる。石製品の切り出しのため、母岩や石材に矢穴を列状に穿って石を切り出す「矢穴技法」（左頁イラスト参照）は、鎌倉時代に中国から日本に伝来したとされるが、近世の城の石垣石材を大量に得るために盛んに用いられた。中でも「天下普請」と呼ばれる江戸城や駿府城、名古屋城などの公儀普請が江戸幕府が東西の大名に命じて大規模で集中的に行われた。城の建設は、石垣を築くなどの土木工事（普請）と天守や御殿の建物の建築工事（作事）からなる。

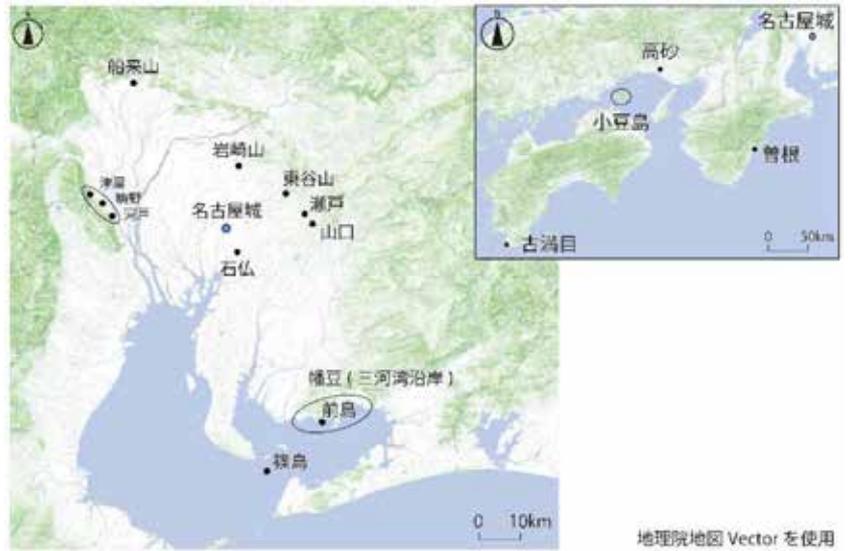


名古屋城石垣にみられる刻印(赤でなぞられた部分)・矢穴

慶長 15(1610) 年の名古屋城「天下普請」



名古屋城 復元天守



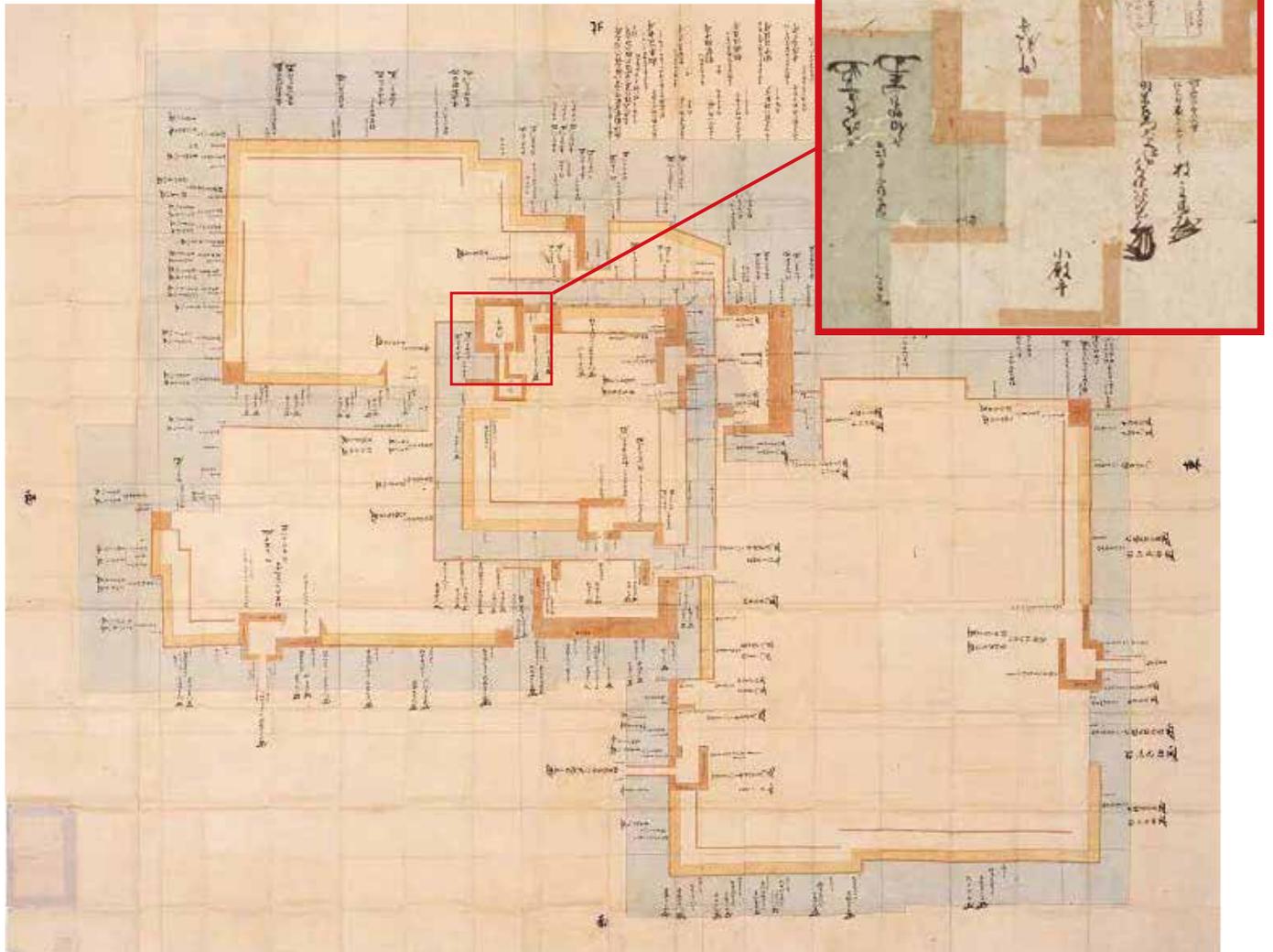
地理院地図 Vector を使用

名古屋城の主な石丁場跡 位置図

((大村ほか 2024)より (2025 山口地区見学会レジュメで一部加筆))

西国大名を動員した公儀普請一覧表
(慶長 15 年まで) (堀内 2023 より)

和暦	西暦	城郭	内容
慶長 8 年	1603	江戸城修築	江戸城下の拡張工事
慶長 9 年	1604	江戸城修築	石船・石材の調達
慶長 11 年	1606	江戸城修築	本丸・外郭石垣の修築
慶長 12 年	1607	駿府城修築	本丸・二之丸の修築
慶長 13 年	1608	駿府城再築	前年火災による再築
慶長 14 年	1609	丹波篠山城築城	松平康重の居城
慶長 15 年	1610	名古屋城築城	徳川義直の居城
慶長 15 年	1610	丹波亀山城築城	岡部長盛の居城

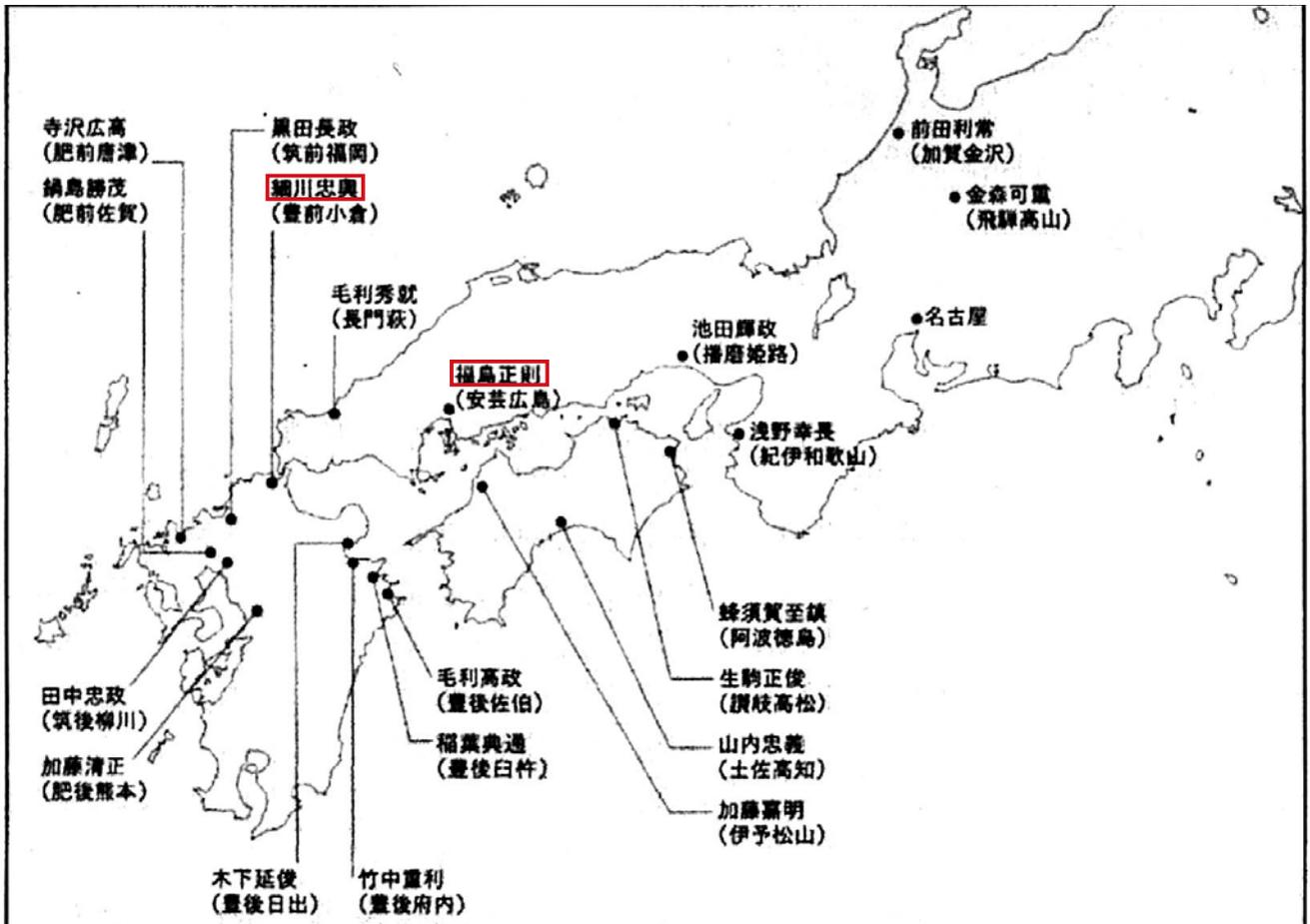


名古屋御城石垣絵図 靖國神社遊就館蔵
(名古屋城調査研究センター 2022) より

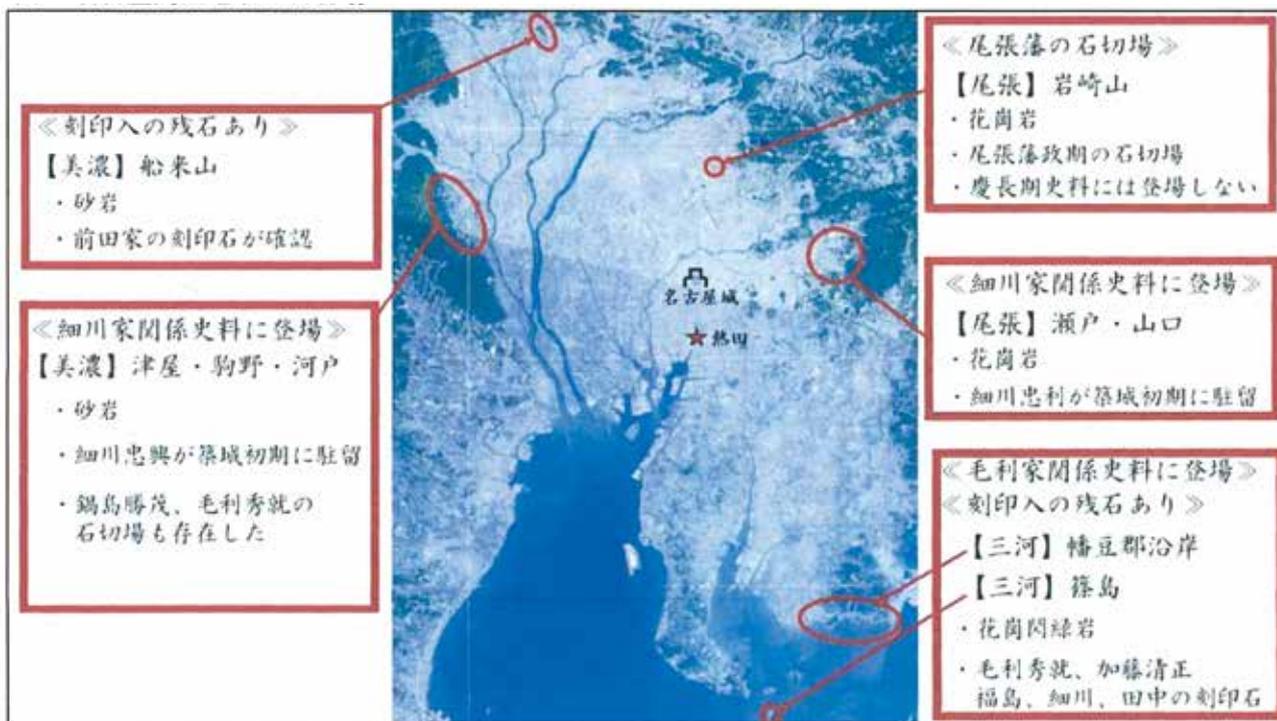
慶長 15(1610) 年名古屋城普請参加大名一覧 (堀内 2024 より)

地域	大名	通称	居城	石高
北国・九州	加藤清正	加藤肥後守	肥後・熊本	51万9890石
	前田利常	松平筑前守	加賀・金沢	103万2700石
	黒田長政	黒田筑前守	筑前・福岡	30万7000石
	細川忠興	羽柴越中守	豊前・小倉	30万0000石
	鍋島勝茂	鍋島信濃守	肥前・佐賀	35万7037石
	田中忠政	田中筑後守	筑後・柳川	30万2085石
	寺沢広高	寺沢志摩守	肥前・唐津	9万5146石
	毛利高政	毛利伊勢守	豊後・佐伯	1万9000石
	竹中重利	竹中伊豆守	豊後・府内	2万0000石
	稲葉典通	稲葉彦六	豊後・臼杵	5万0060石
	木下延俊	木下右衛門大夫	豊後・日出	3万0000石
	金森可重	金森出雲守	飛騨・高山	(3万8402石)
中国・四国	池田輝政	羽柴三左衛門	播磨・姫路	80万7500石
	生駒正俊	生駒左近大夫	讃岐・高松	8万5900石
	福島正則	羽柴左衛門大夫	安芸・広島	49万8200石
	浅野幸長	浅野紀伊守	紀伊・和歌山	37万4200石
	山内忠義	松平土佐守	土佐・高知	20万2600石
	毛利秀就	松平長門守	長門・萩	20万0000石
	蜂須賀至鎮	蜂須賀阿波守	阿波・徳島	18万6700石
	加藤嘉明	加藤左馬助	伊予・松山	19万1600石

- ・石高は「名古屋御城御普請衆御役高ノ覚」(熊本大学所蔵松井家文書)より引用
- ・金森家の石高のみ「蓬左遷府記稿」より引用
- ・太字は幕末まで大名として存続した家
- ・加藤嘉明は嫡子である明成が改易された後、嘉明の孫にあたる明友が名跡を継いだため、減封を受けながらも大名として存続した。



名古屋城普請参加大名居城分布図 (堀内 2023 より)



名古屋周辺地域の石丁場 (堀内 2023 より)

「当代記」・「徳川実記」・「家康文書」による名古屋城普請の経過 (堀内 2023 より)

年	月日	内容	出典
慶長 14 年 (1609)	1 月 25 日	清須を訪れた家康が名古屋城の「経営」を命令	徳川実紀
	11 月 18 日	普請奉行・牧助右衛門(長勝)が名古屋城の縄張を実施	当代記
慶長 15 年 (1610)	1 月 9 日	家康が名古屋を訪れ縄張を命令、2 月に普請開始を指示	当代記
	閏 2 月 8 日	駿河在府の西国大名が名古屋に出発	当代記
	6 月 3 日	名古屋城本丸石垣の根石置き開始	当代記
	6 月 12 日	名古屋城の本丸石垣が完成、二之丸普請の開始	当代記
	6 月 20 日	家康が名古屋城本丸普請出来を慰労する黒印状を出す	家康文書
	9 月 9 日	名古屋城普請がほぼ完了、諸大名が順次帰国	当代記
	9 月晦日	家康が名古屋城普請の完了を慰労する黒印状を出す	家康文書



静岡県伊東市ナコウ山
「羽柴越中守石場」刻銘石

【史 5 《細川家》】 慶長 15 年 1 月 19 日 名古屋城普請覚 (一) 下

《細川家重臣が名古屋に派遣する家臣たちに注意事項を通達している》

- ・ 1 月 19 日に小倉を出船、伏見・京を經由して、2 月 8 日には名古屋に到着すること
- ・ 「普請組合」は稲葉典通・木下延俊・毛利高政と同組になるように手配すること

→名古屋城普請を命じられた細川家は、1 月 19 日時点で家臣を名古屋に先行させた

→細川忠興と仲の良い大名である稲葉・木下・毛利高政と同組になるよう調整した

【史 12 《細川家》】 慶長 15 年 閏 2 月 10 日 細川忠興書状 (三) 上

《普請場である名古屋に向かっていた細川忠興が現地の状況を国許に伝えている》

- ・ 名古屋には普請奉行が一人も来ていないので、我々は美濃・津屋という石切場にいる
- ・ 丹波篠山城普請に参加した大名も残らず名古屋城普請を命じられた
- ・ 俄のこと(急速出された命令)だったので、各々困惑しているが、我々は「くつろいで」いる

→篠山城普請に参加した大名が急速動員されたことに焦っている様子が分かる

・細川家史料に登場する石切場

美濃：津屋・駒野・河戸(河津) 細川忠興が石材調達を指揮 (2月～3月)

尾張：瀬戸・山口 長岡内膳(有吉興道)が石材調達を指揮、細川忠利も駐留(2月～3月)

→細川家は閏2月の段階で、複数の石切場と名古屋に分散して普請の指揮を執っていた

【史18《細川家》】慶長15年閏2月19日 細川忠興書状 (四)上

《美濃・津屋にいる忠興が尾張・山口にいる長岡内膳に石切の指示を出している》

- ・其方(長岡内膳)はそのまま山口で石材の切り出しをなさい
- ・名古屋の堀普請の人手については、津屋の方から出す
- ・此方(津屋)には良い割石は無いので、其地(山口)で面の良い石を切り出しなさい

【史19《細川家》】慶長15年閏2月22日 細川忠興書状 (四)下

《忠興が瀬戸・山口の石切場にいる嫡子忠利に注意事項を伝えている》

- ・瀬戸・山口の石場は今後「惣様の割」になるので、そうなる前に石を多く確保しなさい

【史22《細川家》】慶長15年3月22日 細川忠利書状 (五)上

《忠利が国許にいる松井康之らに名古屋城普請の状況を伝えている》

(丁場割について)

- ・中国・四国・紀の国衆は丹波篠山城普請に動員されたので負担が軽減される
- ・本丸は九州・北国・美濃衆だけで普請、二之丸は中国・四国・紀の国衆も入れて割り当てる

(必要な石材について)

- ・細川家の割当は約1000坪、石数は約6000個が必要
- ・4200～4300個は既に用意できており、残り1900個は来月10日には半分用意できる
- ・天守の石材は、4月10日までには五郎太(裏込等に使う丸石)も大石も用意できる

(史5～22は(堀内2023)より)

海上川石丁場跡 (位置図17)

海上川石丁場跡の刻印(「井桁」)



海上川石丁場跡の露岩につく矢穴





海上川・篠田川流域石丁場

【参考・引用文献】

- 田口一男・佐藤好司・中野光孝 2019 「石材から見た名古屋城石垣」『椋山女学園大学教育学部紀要』12
- 沢田伊一郎 2023 「瀬戸市水北町石樋石丁場跡と周辺の残石（前）」『城』第234号 東海古城研究会
- 沢田伊一郎 2024 「瀬戸市水北町石樋石丁場跡と周辺の残石（後）」『城』第235号 東海古城研究会
- 田口一男・佐藤好司 2015 「名古屋城石垣採石丁場の新知見」『名古屋地学』77号
- 名古屋城調査研究センター 2022 『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告書3 資料調査研究報告書1
- 後藤典子 2022 「細川忠興・忠利父子の名古屋城石垣普請」『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告書3 資料調査研究報告書1
- 堀内亮介 2023 「名古屋城石垣の文献調査と展望」『令和5年度第2回城郭市民セミナーレジュメ』姫路市立城郭研究室主催
- 大村陸・川出康博・木村有作・田口一男・二橋慶太郎・高橋圭也・服部英雄 2024 「長久手市猪鼻堰跡残石群測量調査報告」『名古屋城調査研究センター研究紀要』第5号
- 堀内亮介 2024 「大名家文書からみた名古屋城公儀普請（1）」『名古屋城調査研究センター研究紀要』第6号

山口天神の牛石（位置図 19）・山口八幡 1 号墳



『尾張名所図会 下巻』に描かれた江戸時代終わり頃の山口八幡社（山口神社）とその周辺（着色は後補）



背面

牛石は、山口八幡 1 号墳の天井石の一部を矢穴技法で割った残石とみられる。幅 2.1m、奥行 0.76m、高さ 0.45 m の長方体の



左側面



上面

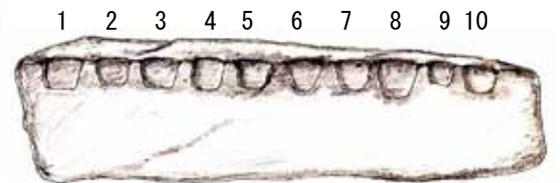


右側面

花崗岩。正面・背面および左側面の 3 面に各 10・9・3 点の矢穴がみられ、矢穴幅は 8~15cm の幅広のもの。



正面



正面スケッチ（丹羽氏提供）

山口八幡社（山口天神）の牛石



山口八幡1号墳発見時近影(南から)



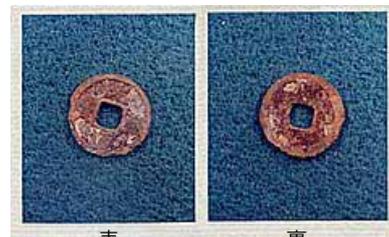
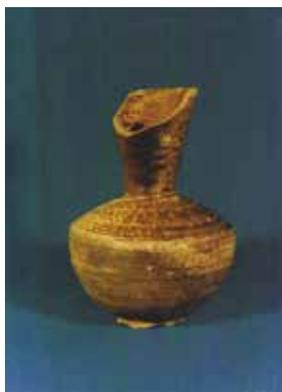
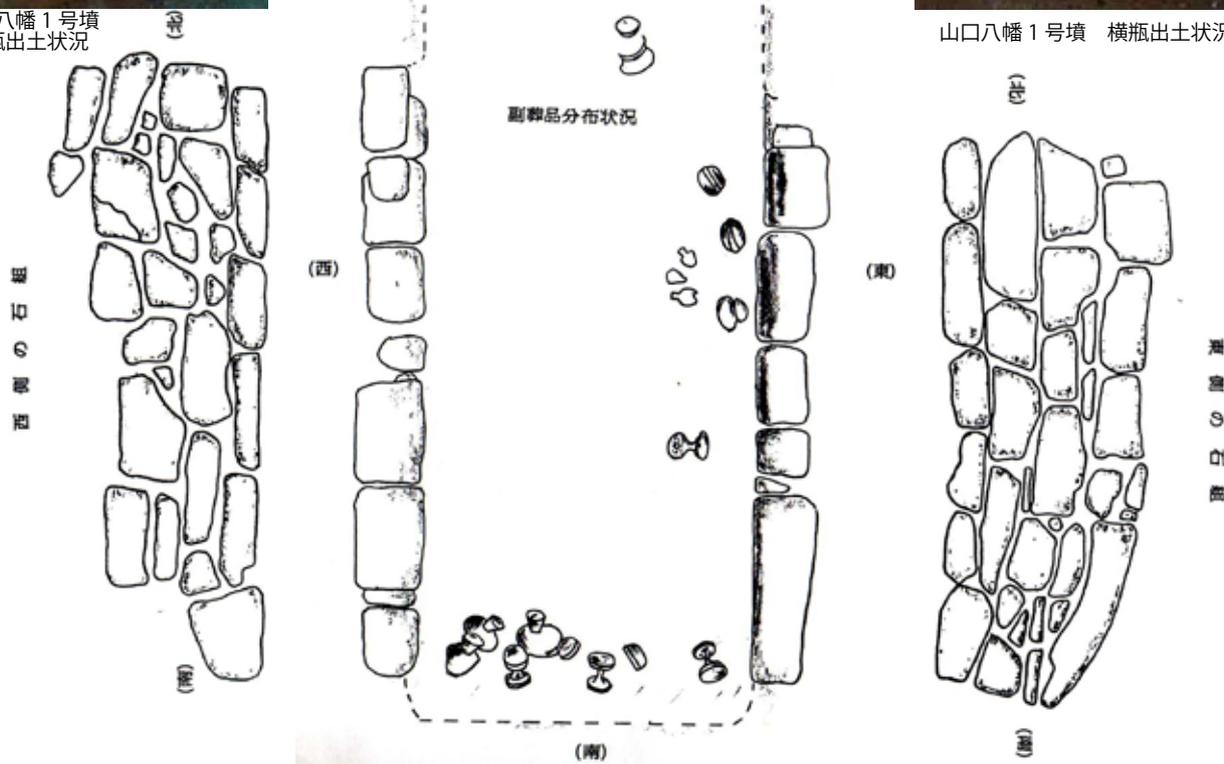
山口八幡1号墳発見時 東側側壁



山口八幡1号墳
横瓶出土状況



山口八幡1号墳 横瓶出土状況



表

裏

山口八幡1号墳の発見時の写真と石室見取図および出土副葬品ほか

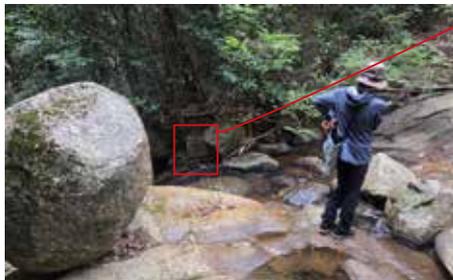
石 樋 (位置図 2)



『尾張名所図会 下巻』に描かれた江戸時代終わり頃の石樋



石樋近影



刻印「口に大」のみられる残石

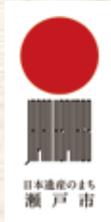


2面に矢穴のみられる残石



西尾市前島で確認された「口に大」刻印のみられる残石と PR キャラクター「やあなちゃん」

瀬戸市歴史文化基本構想を推進するため、
瀬戸市の各地区から
歴史文化に詳しい市民が参加して
ワークショップを行い、
「瀬戸」の重要な文化遺産のものがたりを
4つ選び出しました。



本事業は、平成31年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業(文化芸術振興費補助金)を活用して実施しています。

お問い合わせ

瀬戸市歴史文化基本構想を活用した観光拠点形成のための協議会

0561-84-1093

[瀬戸市地域振興部文化課]

せと

せとの魅力は「せともの」だけじゃない?
市民が推す四つのせと物がたり



新時代の
ツクリテは
何処に?

せと物がたり 1

尾張・三河・美濃
三国の
交わる場所



せと物がたり 2



美しい自然に
親しむ



せと物がたり 3

マメ女匠

祭りと伝承



せと物がたり 4



物がたりの舞台を巡りながら、
せとの魅力を再発見してみよう!
新開設!「せと物がたり」はコチラから